研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-142		21-415	独立行政法人国立病院機久里浜医療センター　真栄里　仁 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター　松下幸生

題名（原題／訳）

Alcohol Consumption in Response to the COVID-19 Pandemic in the United States
米国におけるCOVID-19パンデミック禍でのアルコール消費

執筆者

Barbosa C, Cowell AJ, Dowd WN.

掲載誌

J Addict Med. 2021 Jul-Aug 01;15(4):341-344. doi: 10.1097/ADM.0000000000000767

キーワード	PMID
アルコール消費量，アルコール政策，COVID-19、危険な飲酒	33105169

要　旨

目的：過剰なアルコール摂取は，深刻で悪化しつつある公衆衛生上の問題である．米国では，COVID-19 のパンデミックに伴う自宅待機命令やアルコール規制の緩和直後からアルコール飲料の売上が大きく増加した．しかし、アルコール消費がどの程度変化したかはわかっていない。本研究では，自宅待機令の前後の飲酒パターンの違いを評価する。

方法：2020 年 5 月，21 歳以上の米国人口を代表するように選ばれた 993 人を対象としたオンライン横断調査で，2020 年 2 月にアルコールを摂取した人（n＝555）の自宅待機命令制定前（2020 年 2 月）と制定後（2020 年 4 月）のアルコール飲酒パターンを評価した。飲酒量の差の報告を計算し、飲酒パターンの差と個人特性との関連を検討した。

結果：2 月に比べて、4 月は 1 日あたり飲酒量が増加した割合（＋29%、P＜0.001)、推奨飲酒量を超えた割合（＋20%、P＜0.001)、乱飲（＋21%、P＝0.001）が多く見られた。これらの差は，調査対象のすべての社会人口統計学的サブグループで認められた．2 月と 4 月間で、飲酒制限を超えた割合の差は、男性よりも女性で大きく（P = 0.026)、白人よりも黒人のほうが大きかった（P = 0.028)

結論：COVID-19 のパンデミック，公衆衛生上の対応，アルコール政策の変化，アルコール消費量の間には関連がある．パンデミック時のアルコール消費に関する公衆衛生上のモニタリングが必要である